



タイの首都バンコクの交通渋滞は世界的に有名である。トムトム社発表の「Traffic Index 2020」によると、バンコクの交通渋滞レベルは世界第10位にランクされている。不名誉な結果である。交通渋滞に絡み、車の排ガスが原因とされる大気汚染問題もクローズアップされている。バンコクで暮らしていると、自動車やバイク優先の交通事情に驚かされる。幹線道路で横断歩道を渡るうとしても、ほとんどのドライバークは停止しない。信号機があるところでも、人がいないと分かればノーブレーキで横断歩道を通り過ぎていく。安心と思える歩道でさえも、バイクが逆走すること

バンコクの交通マナー

度々だ。こうしたドライバーが増えている背景には、警察の取り締まりが少ないことや、十分な交通ルールの研修を受けることなく、簡単な試験と実技で運転免許が取得できることが挙げられる。私の知人は学科試験や実技を受けることなく、6千バツ(約2万円)を支払えば、運転免許が取得できたと話す。また、交通規則では「赤信号は徐行し、周りに人がいなければ通過できる」とされている。学科試験で、赤信号は「停止」と解答したら不正解になるのもタイの通ルールだ。そんな中、バンコクで痛ましい交通事故が起きた。1月下旬に、バンコク市内で若いタイ人女性医

事故を契機に問題提起

師が横断歩道を歩行中、警察官が運転する大型バイクにひかれて死亡した。この警察官は非番で、ナンバープレートなしで運転しており、停止せず横断歩道に突っ込んだという。

この事故が契機となり、バンコ

女性医師が亡くなった事故現場に設けられたウサギの碑
＝タイ・バンコク



クでは自動車やバイクの交通マナーが問題提起され、市内各所の横断歩道に信号機の設置が始まった。交通事故の現場を訪ねてみた。女性医師の愛称が「うさぎ」だったため、事故現場にはウサギの碑が設けられ、横断歩道の信号機の設置工事が行われていた。人が犠牲になつて世間が騒ぎ、その場限りの対応だけでは、次の犠牲者を出しかねない。必要なのは、交通マナーや交通違反に対する一人一人の意識改革。信号機の設置だけでは決して解決しない深刻な問題がタイにはある。

(岐阜信用金庫
バンコク駐在員事務
所長 高橋英孝)